

高等学校保健体育科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点	
①	1	(ア) 計画的		各 2 × 8	20
		(イ) スポーツライフ			
		(ウ) 多様性			
		(エ) 思考			
		(オ) 伝える力			
		(カ) 協働			
		(キ) 責任			
	(ク) 参画				
2	①, ②, ③, ④	全部合っているものだけを正答とする。	4		
②	1	水中では肺に水圧がかかるので、陸上と比べて息を吐くことは簡単にできるが、逆に息を吸うのが難しくなる。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8	20
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・足をそろえて足首までしっかり伸ばす。 ・頭を下げて体を並行に一直線にする。 ・二の腕で耳か、耳の後ろを挟むようにする。 ・手をそろえて前方にしっかり伸ばす。 ・お腹をへこませて姿勢を安定させる。 	3つ書かれていればよい。 順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3	
③	1	<ul style="list-style-type: none"> ・筋力 ・瞬発力 ・持久力 ・調整力 ・柔軟性 	4つ書かれていればよい。 順序は問わない。	各 3 × 4	30
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが簡単に取り組むことができる運動 ・仲間と楽しくできる運動 ・心と体が弾むような軽快な運動 	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己に適した目標の設定 ・運動の組み立て ・計画の作成 ・実践とその内容の記録 ・測定、評価による新たな目標の設定 	3つ書かれていればよい。 順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 2 × 3	

高等学校保健体育科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点							
1	(1) <ul style="list-style-type: none"> 正しい投球が地面につく前にストライクゾーンを通過したとき。 正しい投球を打者が空振りしたとき。 ファウルチップになったとき。 ツーストライクになる前に打球がファウルボールになったとき。 正しい投球が空振りされ、打者の身体のどの部分にでも触れたとき。 ツーストライクになる前に、打者席内にいる打者に打球が当たったとき。 ストライクゾーンで投球が打者に触れたとき。 球審がプレイを指示したのち、打者が10秒以内に打撃姿勢をとらなかったとき。 	3つ書かれていればよい。 順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各2×3							
	(2) <ul style="list-style-type: none"> 打者走者が、一塁に触れる前に第3アウトになったとき。 走者のフォースアウトが第3アウトのとき。 先行する走者がその回の第3アウトになったとき。 走者が離塁違反でその回の第3アウトになったとき。 第3アウトがアピールによって有利な第4アウトと置き換えられたとき。 	2つ書かれていればよい。 順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各3×2							
	(3) <ul style="list-style-type: none"> 打者が空振りして第3ストライクになった球が、打者の身体の一部に触れたとき。 第3ストライクが捕手に正しく捕球されたとき。 無死または一死で、一塁に走者がいて、打者が第3ストライクになったとき。 打者がツーストライク後にバントした打球が、ファウルボールになったとき。(スリーバントアウト) 打者が片足でも完全に打者席の外に踏み出したり、本塁に触れたりして打ったとき。 打者が打者席外に足を完全に踏み出し、再び打者席内に戻って投球を打ったり、バットに当てたりしたとき。 打者がバットを手から離して打ったとき。 打者が不正バットを持って打者席に入ったとき。 打者が変造バットを持って打者席に入ったとき。 投手の軸足が投手板に触れたのち、打者が反対側の打者席に移ったとき。 打者が打者席外に足を踏み出して、捕手の捕球や送球を妨害したとき。 打者が打者席内にいても、故意に捕手を妨害したり、本塁上のプレイを妨害したとき。 打者が打者席内または打者席外で故意に送球を妨害したとき。 	3つ書かれていればよい。 順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各2×3							
2	(1) 相手の下回転のボールを下回転で低く浅く返球する打法	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4							
	(2) シングルのサービスは、自分のコートと相手のコートに1度ずつバウンドすればどこにバウンドしてもよいが、ダブルスのサービスは、ボールが最初に自分側のコートの右半分にバウンドして、続いて相手側のコートの右半分にバウンドしなければならない。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7							
	(3) <table border="1"> <tr> <td>打ち方</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ラケットの面を左側に向けて当てる。 ボールの右側をこするように打つ。 </td> <td>1つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>向かってくる打球には右回転が掛かっており、真っ直ぐ打ち返すには、打球の右回転を無くすように打ち返さなければならないため。</td> <td>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</td> <td>7</td> </tr> </table>	打ち方	<ul style="list-style-type: none"> ラケットの面を左側に向けて当てる。 ボールの右側をこするように打つ。 	1つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7	理由	向かってくる打球には右回転が掛かっており、真っ直ぐ打ち返すには、打球の右回転を無くすように打ち返さなければならないため。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7	
打ち方	<ul style="list-style-type: none"> ラケットの面を左側に向けて当てる。 ボールの右側をこするように打つ。 	1つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7							
理由	向かってくる打球には右回転が掛かっており、真っ直ぐ打ち返すには、打球の右回転を無くすように打ち返さなければならないため。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7							

4

43

高等学校保健体育科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
5	1 人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセスと定義されている。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
	2 ・衛生的な環境の整備や検疫 ・正しい情報の発信 ・予防接種の普及	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各2×3
	3 性感染症は自覚症状がはっきりしないことや羞恥心などから、医療機関を受診しにくいといった現状があり、未自覚のまま感染したり、パートナーを感染させたりする可能性が高い。また、終生免疫を得られず、パートナーも同時に治療しなければ再感染のリスクが高いことが原因である。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
6	1 ・相手を制しながら大きなインパクトを伴って、背が畳に着くように相当な強さと速さをもって投げたとき。 ・抑え込みの宣告から20秒間抑え込んだとき。 ・絞め技と関節技によって、相手が戦意を喪失したとき。 ・相手が「参った」と言うか、手が足で2度以上叩いたとき。 ・2回目の「技あり」をとったとき。	2つ書かれていればよい。 順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各4×2
	2 図1 前回りさばき 図2 後ろさばき		各3×2
	3 図1 背負い投げ 図2 大腰 図3 釣り込み腰		各3×3
	4 相手が受け身を取りやすくし、頭などを打たないようにするため。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
7	1 自己に適した技を高めて、演技すること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5
	2 背中をマットに接して回転する技群	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5
	3 図1 前方ツーステップ 図2 かかえ込み跳び		各2×2
	4 波動		2
	5 要因 ①顎を引いているため、身体を反らすことができていない。 ②手をつく位置が遠く、足の蹴る勢いが弱い。 ③手の突き放しができていない。 指導上の工夫点 ①手の間に何かを置き、それを見ながら倒立ブリッジを行う。 ②助走からホップ（弾む動き）から補助倒立や壁倒立を行う。 ③ロイター板をマットの下に入れ、ロイター板に手をついて行う。	2つ書かれていればよい。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 要因と指導上の工夫が対応しているものだけを正答とする。	要因各3×2、指導上の工夫各7×2